

総美、ベトナムに「おもてなし」ヘアサロン

地域発世界へ 栃木県

スタートアップ

+ フォローする

2021年8月3日 18:00 [有料会員限定]

保存

あA 印刷 送信 共有 ツイート Facebook 共有



ベトナムでは日本の若手美容師の研修も計画（ダナンの直営店）

栃木県でヘアサロンを展開する総美（宇都宮市）は2019年、ベトナムのダナンに直営店を開いた。文化の違いを抱える海外をあえて目指したのは、国内に依存した事業成長や美容師育成が難しくなってきたことが背景にある。日本の若手美容師をダナンに派遣して技術を磨いてもらう一方、現地採用の社員を本社の管理職に育てる構想も持っている。

総美が海外に進出したのは14年。美容業を営む経営者十数人と共同出資会社ジャパンビューティアソシエーション（JBA、仙台市）を設立し、ベトナムのホーチミンに出店したことがきっかけだった。

人口減少や高齢化が進む国内では将来への不安が大きく、「日本にいるだけでは利益を出せない」（郡司成江社長）と危機感を抱いていた。一方で単独の海外出店にはリスクもつきまとう。頭を悩ませていたところ、経営者仲間から誘いを受けてプロジェクトに参加した。

JBAの店舗は習慣や好みの違いに対応した。たとえば、日本ではシャンプー時に優しく洗う。対してベトナムでは爪を立てて強く頭皮を刺激することが好まれるため、頭皮用ブラシを導入した。店内は日本の美容室のように洗髪台の間隔をあげ、余裕のある配置にした。

当時のベトナムでは美容院のカット価格は日本円で500円程度だったが、「利益を出せなければ出店の意味がない」（郡司社長）と、日本と同水準の4000円に設定。同時にお茶を出したり、髪質に応じて適切な髪形を提案したりと、現地になかったサービスを提供した。

ヒントになったのは郡司社長の英ロンドンへの美容留学経験だ。海外の美容室は「技術だけが求められ、髪を切る場所という認識が強い。マッサージやシャンプーには力を入れていない」。そこで日本流の「おもてなし」をベトナムで試したところ、現地の経済成長も追い風となり、得意客を獲得していった。

19年には直営店をダナンに出店した。日本ではカットモデルが不足し、若手美容師が腕を磨く機会が減っているが、若年人口が多いベトナムではモデルを確保しやすい。現在は新型コロナウイルス禍の影響で止めているが、日本の美容師を数カ月ごとに研修させる準備をしている。近年のベトナムはソフトな髪形が流行するなど「世界標準に近づいている」（ダナン店の鴫田篤太郎ゼネラルマネジャー）という。

ベトナムの採用者の中には将来の管理職として育てている社員もいる。「国籍を問わず能力や志の高い人材を増やし、レベルを上げていきたい」。ダナン店で育成の仕組みが整えば、周辺都市にも新店舗を展開していく計画だ。

（宇都宮支局 桜井豪）

会社概要 1963年創業。栃木県でヘアサロン9店舗、理容室4店舗を展開。カフェや写真館なども手掛ける。2020年5月期の売上高は7億円。従業員数は122人。

保存

あA 印刷 送信 共有 ツイート Facebook 共有